氏　名	玉　村　香　代　子
学 位 の 種 類	修　士(看護学)
学 位 記 番 号	修　士　第　103　号
学位授与年月日	平成20年3月25日
学位論文題目	糖尿病足病変に対する早期介入のための簡便な指標－感覚低下検出におけるモノフィラメントの有用性－

別紙様式３

論　文　内　容　要　旨

※整理番号	107	(ふりがな) 氏　　名	たまむら　　かよこ 玉村　　香代子
修士論文題目	糖尿病足病変に対する早期介入のための簡便な指標 ―感覚低下検出におけるモノフィラメントの有用性―		

【研究目的】

近年、糖尿病足病変を合併する患者が増加し、足病変の罹患は下肢切断に至る糖尿病壊疽の原因としても注目を浴びている。糖尿病足病変の予防と対策は糖尿病患者にとって重要な課題といえる。足病変リスクの一つである圧触覚評価にはモノフィラメント検査が普及しつつあり、一般には足底部で評価されている。しかし足底部は胼胝などの好発部位であり、足背部の検査が優れていると考えられる。本研究ではモノフィラメントによる圧触覚閾値測定を母趾底部と背部で比較し、さらに本検査法の有用性を検証することにより糖尿病足病変の早期リスク検出方法を確立することを目的とした。

【研究方法】

本研究は断面研究として実施した。本学附属病院外来通院中および入院中の糖尿病患者を対象とし、糖尿病神経障害と紛らわしい症状を有する脳血管、頸・腰椎、脊椎疾患患者および認知症などの意思伝達に支障のある者は除外した。糖尿病患者 97 名を分析対象とした。加えて、健常者 53 名を一部の検査の対照とした。調査項目は、乾燥・胼胝等の足の観察、モノフィラメントによる圧触覚閾値、客観的な検査機器である CASE-Ⅳによる振動覚・冷覚・温覚閾値測定とした。統計処理は SPSSVer15.0J を用いた。

【研究結果】

糖尿病患者の母趾底部の病変は 45%に認めたが母趾背部には認めなかった。足病変を有する患者の圧触覚評価時は病変部位を避けて施行する必要性があるなど、底部は背部に比べて検査部位として劣っていた。

母趾底部と足病変の有無との関連において、乾燥・肥厚を有する患者の圧触覚閾値は有意に上昇していた。また、圧触覚閾値は両方の部位で CASE-Ⅳによる検査値と相関していたが、相関係数は概ね背部の方が高かった。CASEⅣ検査値は振動覚・冷覚・温覚閾値とも健常者に比べ糖尿病患者が有意に上昇していた。特に振動覚閾値は神経障害あり群はない群より高値を示した。糖尿病神経障害検出のための圧触覚測定における ROC 曲線は母趾底部に比べ背部の方が良好な曲線を示し、母趾背部の感度/特異度が良好であったモノフィラメントサイズは 3.84/0.6g であった。

【考察】

母趾底部の乾燥・肥厚のある患者とモノフィラメント圧触覚閾値が関連していたこと、背部には、病変を認めなかった点を考慮すると、モノフィラメントによる圧触覚閾値測定は母趾背部が適していると考えられた。また、圧触覚閾値と CASE-Ⅳ検査値は高い相関性を示し、母趾底部に比べ背部との相関係数が高かったことより、背部の方が圧触覚閾値測定には有用であることが示唆された。加えて糖尿病神経障害を検出するための ROC 曲線においても母趾底部より母趾背部が良好な曲線を示すことから、神経障害のスクリーニングには母跡背部が適していると考えられた。

【総括】

フットケアの一環として早期の足病変リスク検出のための圧触覚閾値評価には母趾背部が簡便で有用であることが示された。 また、3.84/0.6g のモノフィラメントを閾値とする患者には、圧触覚障害のみならず、他の感覚神経機能も障害されている可能性があり注意深い経過観察と患者教育が必要と思われる。

（備考）１．研究の目的・方法・結果・考察・総括の順に記載すること。（1200 字程度）
２．※印の欄には記入しないこと。